



新編

古談正

風林風

龍家大系圖
下

和
2.971
2止





誹家大系圖下之卷

伊勢津

生川春明著



山本西武

光方

佳種

瑞信

田中氏通称詳ナラス名ハ信光銀竹軒ト号ス京師久西武叟
 高弟ニシテ後一家ヲナス朝江種寛ト友トシ善シ 家書
 雀子集 常磐草 々々々々 等アリ
 星野氏通称六左衛門家名ヲ山田屋ト号ス京師久後判
 髪シテ宗以下改ム西武叟老弟ナリ
 北岩倉桑門甫菴ト号ス 家書 連俳合掌 一卷
 アリ没年詳ナラス

誹家大系圖下卷

正在 隨流

崎入傳ニ
金勝慶安
トアリ歌
入トニタリ

小原氏名隆光京師ノ人没年詳ナラス家譜ニ直弟ト
アリ案ニ崑山集ニ谷野正在ト云入アリ此人ヲ謬歎
中島氏通称源左衛門名勝直松月菴ト号ス薙髮シテ
隨流ト改ム隨流ノ二字ハ公書シテ經文ニヨル
トモハ水車ト句ヨリ起ルトモ云三條川原町上町ニ住ス
即吟ニ達シ回文ヲ善ス家書 紙屋川水車寛文元年独吟
千句全篇回文アリ
破邪顯正菅野谷高政ノ
中庸塗批言 鶯ふえ 百千鳥
貞徳永代記 二ツ 盃或書ニツ盃ハ金勝慶安任信ト云入
ノ作トナリ隨流下葉ノ人歎考ヘシ
等アリ 宝永五年戊子二月土日没行年八十

隨有

文瓜

素伯

瀧川氏昌樂ト号ス復怒水子ト称ス儒學ヲ松永昌三隨ヒ
佛事、梅盛ヲ師トシ後隨流ニ属ス宗因風横行スルヲ憎シテ批言
ノ書ヲヅル号シテ猿ヤリリト云
洛東鷲峯ノ桑門法名詳ナラス
家書 夢物語 アリ
隨風 姓氏詳ナラス書風
隨流ト伯仲ス
京師法然寺ノ住職法名詳ナラス一号満郭ト云元禄五年印
本ノ書目録ニ源氏鬢鏡一卷著ス下アリ謬タリ上卷ニイヘリ

正長

貞木

島本氏通称七左衛門正伯ト号ス京師ノ人崑山集ニ田中正伯ト云入
リ貞翁真門人歎又廣澤長好ノ家集ニ同名ノ人モミエタリ
出口氏花香堂ト号ス 家書 手松明 一卷アリ
元禄九年丙子十月二日没行年七十一

柳水

紹節

定之

乘秀

道可

中路氏神輿岡ニ住ス
家書 大元式アリ
藪内氏紹春カ男忠岳ト号ス京師ノ人茶事ヲ以テ業トス
没年詳ナラス茶人大系圖ニ忠岳ノ二字ヲモラセリ
神戸氏東林軒ト号ス 家書 一挺ツバ凡 一卷アリ
西武晚年門人ト云元禄十三年庚辰九月六日没
辞世 朝うかハ久一きりのよ五十年
足田氏通称十一屋市兵衛始名養壽ト云
京師ノ人
山本氏名字詳ナラス京師六條ノ人ナリ或云東本願寺
ノ家司トモ 叔或説
ニ曰西武叟撰スル砂金帝後集四卷師ノ名ヲシルストイヘトモ

月潭 尚榮 重晴

實ハ此士ト一雪トハカリテ撰スル所ト云イマ多是非ヲ知ス
清水氏通称詳ナラス
友松軒ト号ス宇治ノ人
杉山氏通称嘉兵衛
京師ノ人

北村季吟

湖春

北村氏季吟長子幼名休太郎名ハ季重雅髪シテ湖春ト
改ム書ヲヨクス間ノ町ニ條下ル町ニ住ス父ニ從テ 東府ニ參仕
シテ法橋ニ叙ス 元禄十年丁巳正月十五日父ニ先テ卒ス行年
五有余池之端七軒町正慶寺ニ葬ル 花果院ト号ス

湖元

湖春息子始湖源ト号ス 寛延二年己巳五月四日没

日宗寺ニ葬ル

湖外

姓氏詳ナラス一松軒ト号ス富小路五條上ル町住ス 元禄年
間ノ点者百人一句追加ニ載タリ 或書曰

正立

北村氏季吟次男幼名權三郎名季次新玉津島住ス後又仕
テ東府ニ在リ 家書 一ト立アリ元禄十五年壬午八月

廿日没

瑞輪寺中玄妙院ニ葬ル成等院ト号ス

玄水

山岡氏通名玄磷抱甕齋ト号ス京師六角通ニ住シ医ヲ以テ業ト
ス吟叟ノ高弟ナリ 家書 身樂千句 誦諧仕様

諸國独吟

誦諧小式

吉野山独案内

隨葉集大全

たのしむ

方丈記頭書

徒然草欽補

多我身乃上

水鏡抄

今川抄

風月往来抄

腰越状抄

等アリ延宝三年ノ夏疫癘ニ冒セテ没ス年記詳ナラス

好春

児玉氏向陽堂ト号ス或汲谷軒ト称ス京師ノ人トモ又
或南都ノ人トモ又 伏見ノ産トモ云

家書

新オホ鳥アリ

家譜坂上氏トアリ謬ナリ

松春

松泉

未達

竹翁

元怨

可全

立卜

児玉氏好春息池流亭ト号ス 家書 祇園拾遺物語

味健謙諧小傘 同等アリ没年不詳案ニ宝永正徳ノ頃歿

児玉氏松春カ從弟初松洗ト号ス後泉ノ字ニ改ム松春没メ後

池流亭ト号ス又自小僧ト称ス 元文元年丙辰九月三日没ス

行年五十三〇松春ハ元禄五年印本 四十三番時代不同發見合ニ

西村氏通称 名久重京師堀川 一人ナリ書

物嚮ラ業トス 家書 関相撲 三巻アリ

橋部氏耕齋ト号ス 宝永五年戊子三月五没行年

六十二京師人 當百人一ノ一人ナリ

山岡氏元磷從弟名字詳ナラス京師ノ住 家書

續俳諧仕様アリ寛文延宝中ノ人

大村氏通称彦太郎家名ヲ白木屋ト云京師室町ニ住ス和

歌連歌ニ達ス元磷可全ハ吟叟羽翼ノ門人ナリ

半井氏通名詳ナラス一六ト号ス始名ハ文郁京師ノ人後浪

名ニ移リ医術ヲ以テ業トス浪名三十六人一人ナリ

正風祖 桃青

松尾氏俗称甚七或志左衛門名宗房伊賀国上野ノ人始京師ニ出

テ吟叟ニ隨ヒ師木嶋筑波ノ道ヲキム後東府ニ下テ談林輩ニ交リ勅破

ニ正風ノ道ヲ開ク其風日々盛ニ其從弟月々加ル凡二千有余人薙髮ヲ

風蘿房ト号シ芭蕉翁ト称ス 深川ノ菴室ニ芭蕉一棟ヲ植テ雨中ノ吟ハ芭蕉

家書 二十歌仙 野多クテ益々雨と知る者ハ芭蕉名ニ起ル

貝おやひ 延宝八年次庚申初夏博打町本屋 三百 韻 奥の細道

以下集門弟ノ条ニ抄出 元禄七甲戌十月十日没ス行年五十有三

栗津義仲寺ニ葬ル 終焉記ハ晋子其角ノ枯尾花ノ巻首ニ載

開キミルニ尚翁ノ傳ハ路通ノ行状記許六滑稽傳及ヒ二代記其

外諸書ニ委シケレハコニ不贅 尚門人等 中編 下巻 下編 二云ベシ

山口氏名信章字子達来雪ト号ス復自蓮池翁ト称ス 庭前ニ蓮池ヲ

故此名アリ天和三年其角カ撰メルニ素堂カ荷與十唱アリ其

一章ニ「うきまよきまよき」ノ句アリ又同集其角蓮池ヲ臨ムノ句

「凡秋の荷葉ニ翁と 繪ヲ善シ松尾桃青翁ト友トシ善シ

家書 〇〇〇〇の句合アリ享保元年丙申八月十五日没ス

行年七十五谷中感應寺中瑞音院ニ葬ル

黒露

似春

山口氏素堂甥宗齋ト号ス稻中菴ト称ス家書硯澤
老山集駿河百韻等アリ宝曆年間八十有余ニテ没ス
小西氏通称詳ナラス大坂ノ人ナリ江戸本町ニ寓シ後総州行
徳ノ社職トナル家書芝さう山ノ端千句等アリ扱或
書ニ曰似春ハモト里村家ノ門人ニテ連歌師ナリ通称加右衛門ト
号シ家名ヲ奈良屋ト云又一説ニ奈良屋加右衛門ハ導ノ俗名ニシ
テ似春ニアラス似春ハ加賀屋三郎右衛門ト云イフカ是ナルヲ知ラス

秀和

無倫

大野氏通名詳ナラス炭瓢齋ト号ス又自相水翁ト称ス始集和
ト号ス後今ノ字ニ改ム江戸ノ人也弱冠ノ頃某侯ニ仕ヘ辞メ後隱主ト成
正徳四年甲午八月卒ス六十有余 元禄九年 びつ千鳥三肖
像ヲ載タリ○男ヲ秀堂ト号ス父ノ後ヲ續テ家声ヲ墮サス
志村氏拾葉軒雪堂翁ト号ス江戸大鋸町ニ住ス本共越後也
家書紙文夾ニ卷アリ享保八年癸卯二月廿九日没ス行
年六十三合海山青松寺ニ葬ル法名天質硯壽居士
辞世 涙かさゝり水より水への道

倫里

讀糟

吟市

足立氏穂葉軒ト号ス 来川 足立氏倫里息始古鈴又水軒
石齋住ス享保中ノ点者 ト号ス家書金臺録
村松氏孤松軒ト号ス 夢物語等アリ元文元
紀州若山人 年丙辰十二月没
東武大徳院弟子安住院住職法名尊海和尚後本土江州
銀塘ニ居ス天和壬戌年卒ス 或書始高野山蓮花寺住職トアリ
或隨心院トアリ

吟市

浮生

水雲

久津見氏初名詳ナラス江戸ノ人
二世吟市ノ後ヲ續テ吟市ト云
北藤氏銀塘居或ハ迦樓羅園ト号ス江戸銀町ニ住ス家書
原誹論 水秤集 鳥跡話 等アリ享保
二年丁酉正月廿三日没行年四十八小日向金剛寺ニ葬ル
姓氏詳ナラス名ハ安朝丹州ノ人或阿州徳島ノ人トモ晩年ニ
及テ京師ニ寓居ス 家書 誹諧鳥合 大長刀
等アリ 當百人一句追加ニ出タリ

可常 如春 友吉 素雲 康吉 道伯 自悅 久武

丹波國氷上郡神池寺中中姓院住職法名不詳家書法のる

二卷アリ○又以隱入玄倫和意友。可常神池寺住伊藤氏名字詳ナラス京師人延宝三年乙卯夏没ス

新百人句二人ナリ津田如春ト八別人ナリ櫻井氏通称甚右衛門京師人或人云友吉八山岡元隣門人

三テ吟叟ノ直弟ナラストモイヘリイタ是非ヲ知ラス佐治氏通称詳ナラス晩年吟鳥ト改ム

京師人茶ヲヒサギテ業トス下村氏通称利兵衛京師人

新百人句二人ナリ青木氏名字詳ナラス浪卷ノ人医ヲ以テ業トス延宝三年乙卯年没ス辞世 けいものやなくて浄土へ月の舟

濱川氏名ハ行中後師風ヲ変ヒテ一風流ヲウクル家書空林風葉集 二日三百韻 花洛六百韻 等アリ

大鹿氏名字詳ナラス京師人 家書 弘誓舟アリ

則常

伊豆氏通称亦兵衛京師人

宣休

中村氏俗称詳ナラス浄貞ト号ス又一安子ト称ス浪卷ノ人 家書 浪花草 四卷アリ息子ヲ宣居ト云

ト琴

柴垣氏一下ト号シ松風軒ト称ス城南山崎巷ノ人繪ヲ善ス梵 益ト友タリ 家書 越路草 四卷アリ

ト尺

小澤氏踏齋ト号ス始名孤吟ト云後蕉翁ノ門人トナリ今名 二改ム 蕉翁東都ニ下リ始テ履ヲトキハト尺ノ家戸ナリト

綾錦ニアリ 寛延四年辛未九月卅日没行年詳ナラス 浅草誓願寺ニ葬ル○父ヲ得入ト号ス 称太郎兵衛本舟町坊正 宝永六年十二月廿四日没

自笑

行年詳ナラス 誓願寺ニ葬ル連俳ヲ善クス 上林氏通称竹菴浄雪ト号ス城南宇治ノ人茶ヲ製スルヲ 以テ産トス晩年白川ニ閑居シテ俳諧ヲ専トス寛文始ツ

安親

頃没ス行年詳ナラス 川並氏通称不詳 宣為 安親男吟叟 門子 孝女 宣為 妹

静山 橘泉 貞度 木因 胡兮 良典 古益 本水

浪卷大文寺ノ住職法名詳ナラス。同名ノ俳僧アリ。比叡山無量院ニ往ス書ヲ善ス筆法定家様ニ似タリ。姓氏詳ナラス。松軒ト号ス京師ノ人。医ヲ以テ業トス。

十會集ノ一人ナリ

高木氏通名詳ナラス皆醉子ト号ス

尾州族ノ臣 寛文中ノ人

谷氏白櫻下ト号ス又自ラ抗川翁ト称ス後蕉公羽ノ門弟トナル美濃大垣ノ人弱年イキハ木端ト云家書俳諧秘密

坂部氏弥堅ト号ス豊前中津ノ人

家書到來集アリ

舘氏意行子ト号ス江戸ノ人

家書むさしの集アリ

桑折氏通称左衛門名ハ宗臣青松軒本水居士ト号ス伊豫守和嶋族 家書 大海集 七卷アリ

頼邑 福富 任口 無端 千丸 白話 暫醉

桑折氏宗臣君息隣松軒

線三居士ト号ス

水野氏通名半内名勝種備後福山族或云梅盛門トモ

家書よりぬき千句アリ

名高通 曾テ連俳ヲ好ミ其頃

誕生中洛ヨリ季吟父子ヲ招キ專行ハセラル編連珠七之卷冬ノ部「季吟」始テあり「俳」ト云ヒ「まは村」也

久居ハ百五十韻アリ御秀詠ハ續連珠集ニ數多載ル開キ見ル

○氏続山乃井集ヲ覽ニ江戸ノ住或ハ伊勢津ノ住トアリ苗氏ニ○ヲ

解ニ故アルニ新続独吟集 季吟判ノ詞ヲ撰ハ江戸ノ久トミエタリ

二條 攝政康道公後淨明珠院ト号ス後中院昭實公男實

忠榮公ノ八男 寛文六年丙午七月廿八日薨六十

東本願寺御門跡 大僧正琢如上人淳寧院ト号ス寛文

十一年辛亥四月十四日寂四十二歳

東本願寺御門跡 大僧正常如上人靈瑞院ト号ス元禄

七年甲戌五月廿二日寂五十四歳

旧旅

東本願寺御門跡 大僧正一如上人忍見院ト号ス元禄十三年
庚辰四月十二日寂五十二歳

○右之御方々吟叟ノ門人ナラス十會集ニ出ニヨリテ爰ニ録ス

高瀬梅盛

元晴 高瀬氏称
太右衛門 元親 高瀬氏称
仁右衛門

信德

伊藤氏通称助左衛門利根園ト号ス又自竹太子或ハ
ト称ス新町夷川ニ住ス幼時皇祖ニ見ユ祖翁許スニ徳ノ字ヲ以
テス翁没メ後西武梅盛ニ從テ道ヲ學フ武没メ後一向梅盛ヲ
師トス每家事務有テ東府ニ往及ニ數檀林ノ徒ニ會メ師風ヲ
変ス故ニ句異躰多シ又蕉翁ニ親ク深シ公羽東府ヨリ書フ洛ニヨ
セテ曰近上都ノ風體何如下信徳和及我黒ノ数人ト日々相會メ
討論ス不覺至飲酒数斗終ニ雨の日や門提テ以カキツク此
句ヲ作テ以テ贈ニ宜ナルカナ其音節ノ佳ナル一其角雜談集及
俳諧古選ニ記セリ 家書 江戸三吟 延宝六年信徳東
堂ト三吟ノ三百 十百韻 五戯言 白 重

浮世姿 七百韻 胡蝶判官 桂まがし
等アリ元禄十一年丙寅十月十三日没行年六十六

信昌

伊藤氏信徳男通名没年詳ナラス按スニ元禄四年印本
ニ信徳孫の角ゆりけ樹ト一市身分の故と追々れとけし
ト昨非ノ吟アレハ弱年ニアラサレニ尚信申云次男モアリ後世通セス
津田氏通名詳ナラス若州小濱ノ人
家書 青葉山アリ

重徳

寺田氏通称詳ナラス畠山集ニ寺田次郎右門正安寺田清兵衛休也 二人
印本種ナクニ三之巻ニ老衰驚初秋ト前書テ
トナリ今夕の一葉ニ吟アリ 家書 独吟集
續独吟集 ちまづり 新独吟集 花見舟慶
等アリ

碓石

管原氏京師ノ人 可心 三宅氏若易小濱ノ人
百人一句ノ一人

江水

姓氏詳ナラス流水堂ト号ス江加柏原ノ人 家書
柏原集 當世百人一句 等アリ

信安

植村氏棹歌齋ト号ス始名芥舟ト云江加水口人後京師住
狂歌ヲ善シ茶香ヲ嗜ム家書 あくくあゆ 花拾遺

一 醉

等アリ 元文二年丁巳八月十七日没行年六十八
姓氏詳ナラス 越後新瀉ノ人

蚤 海

姓氏詳ナラス 京師ノ人

楊々子

丹後宮津沙門法名不詳
家書 浦嶋集アリ

隆 志

北村氏錦花堂ト号ス又自信安齋ト称ス家書合 鏡
芭 本 百社 鶴 草むすび 等アリ明和

元年甲申歳九月六日没齡七十辞世詞書云鳥將死鳴声悲人
將死言善ヲ 誦誦雜一体有常不用之一生 篋云殘誰命期月
日忘哉 乃ちちとけつれとつひはらねるなり

隆 雅

北村氏隆志息子初錦志ト云醒井通松原上町ニ住ス父没メ
点者トナル 家書 宵月夜 己父追善集也 天明二年壬寅四

豊 秋

月廿四日没行年詳ナラス
長村氏皐鶴齋ト号ス宝曆六年丙子十月廿九日没
行年五十七京師ノ人

春 雄

杉本氏青々館ト号ス綾小路通烏丸東ニ入町ニ住ス
即吟ノ達人善ク數句ヲ吐ク没年詳ナラス

文 也

山本氏梅園ト号ス醒井通高辻下ル町ニ住ス
安永八年己亥七月廿八日没行年八十五

胤 公

辻氏大黒菴ト号ス明和七年庚寅八月二十五日没享年四
十四辞世 梨の乃乃丸くさくさ果まらさ

順 也

内田氏幼名平吉 或云俗林トモ 京師室町ノ人ナリ
家書 五節句アリ

本 春

野田氏通称 重春舎弟ト云
家書 三十六俳仙集アリ

倫 員

藤村氏名六忠久芥舟菴ト号ス薙髮シテ如堅ト改ム京師ノ
人ナリ 家書 木玉集アリ 藤村庸軒男

秋風

宣安

一

離雲

行貞

安重

如泉

三井氏名六時次京師ノ人家書狂遊集二卷アリ

没年詳ナラス古選ニ鳴龍住トアル別人歟

筒井氏通名平三郎名良以下云後百之ト改ム東府人始良

德ニ隨ト後梅盛ニ屬スト

内山氏通名正菴播磨姫路ノ人始ハ貞翁ニ從ト後梅盛ニ屬ス

家書 早梅集 六卷アリ

隱僧姓氏詳ナラス洛陽東山清水寺ノ麓ニ草菴ヲ結

懷慧菴ト号ス和歌連歌及狂歌ヲ善ス

内海氏通称治兵衛名光重不求子ト号ス内海宗惠カ從弟

ナリ没年詳ナラス案スルニ寛文中頃歿山下水春之部下ニ

安重「世とくく」浄土の春入日外ト梅盛ノ吟アリ

齋藤氏始ノ名朝三ト云後今ノ名ニ改ム菴ヲ四條道場中ニ結

真珠菴ト号ス善ク漢和ニ達ス家書 重宝記

狂歌句式 漢和十句 松むやし 池心亭

番匠童 其角カエラミ三ツト置 等アリ 正徳五年己未八月

十七日没行年七十有余 ○始ハ香山氏ト云

如雲

秀朝

竹翁

永力

一步

一笑

姓氏詳ナラス京師人

家書 五百三歌仙 如風 京師人

藤井氏通称吉左衛門梅遊子ト号ス三條油小路人梅盛及

貞室ニ隨フ明暦年間没行年詳ナラス鸚鵡集ニ見エタリ

西村氏通名良菴瑞竹軒ト号ス肥後國熊本ノ人始ハ貞翁ニ從

翁寂シテ後梅盛ニ屬ス家書 松花集 肥後名所

等アリ没年詳ナラス案ニ延宝天和ノ頃歿

齋藤氏通称玄真浪老内本町ニ目三佳

医術ヲ以テ業トス没年不詳

千村氏通名詳ナラス濃州ノ人ナリ父ヲ重樹 稱喜右 貞徳翁ノ

直弟ニシテ秀吟寛永ノ鷹筑波集ニ多ク出タリ

野也
重道

角ノ雜談集二曰加加金沢の一笑ハあゝめ他借小あちりし者
あり羽羽脚の程ハ宿中うんとして遠く心きくをまひけね不
年まで重芳の赤よりちぬりて六合けきりもあひりりり
又十三回あつりて奇仙の他借と十三巻孝忠はよして思ひま
けしめんといひて息もきく痛くひけ願のちちぬるをねまひま
いさひんたむきづくひちち小死ひとも悔たうねづゝとて五
羽仙出来ぬまは子帯とちちちちちちちちちちちちちちちちち
ねやまび八巻こねくぬるゝとれハ我肌よけてこそあつり
あひひせやこころとほひの眉重くききりて「んう」雪うら
くしや西のくも臨終正念とすくりり云々トミテり尚同名ノ
俳士数人アリ委ク俳家人名類聚三云ヘシ
高梨氏通称丈菴京師ノ住医術ヲ以テ業トス和歌連歌達ス
又書ヲヨクス明暦万治年間ノ人新百人二句ノ内
木村氏通称詳ナラス飯笹子ト号ス江東草津ノ人書画便覽
三十六ノ内ヲモラシテ此士ヲ載タルハ穿鑿オロカナリト云ヘシ

政時
吉頼
重尚
良三

原田氏ト有子ト号ス
京師久後命政ト改ム
坂倉氏不驕軒ト号ス
濃州竹ヶ鼻ノ人ナリ
小山氏拙心子ト号ス
京師ノ人
一村氏藪竹子ト号ス
京師ノ人

樂圓
可政
道繁
以專

京師觀音寺住僧法名
詳ナラス一号知泉ト云
大田氏通名勘十郎貞松子
ト号ス濃州竹ヶ鼻ノ人ナリ
佐々木氏
京師ノ人
泉州堺真光寺ノ住職
法名詳ナラス

石田未得

可曉宇田川氏
歌道

可信

同苗

未石

同苗邑里
堂俳家

未琢

石田氏未得男良堂ト号ス居所父ト同シ 家書
一本草 和句 解或云未得
著トモ 等アリ天和二年壬戌三
月廿日没行年七十有余淺草誓願寺ニ葬ル 法名
隆芳院未琢居士 新百人二句ノ一人ナリ

意深

石田氏未琢男菊川ト号ス 櫻井氏未琢ノ門人トリ
吉田意安ニ醫道ヲ学フ 中橋通ニ住ス

不卜

岡村氏通称市郎右衛門一柳軒ト号ス東有久 家書
江戸廣小路 向のとら けき原 等アリ元禄
四年庚未四月九日没 平阿山法恩寺ニ墓アリ

不角

立羽氏虚雲齋ト号ス或ハ南々舎松月堂ノ數号アリ。薙髮
シテ法橋法眼ニ任ス。後自千羽ト称。書画ヲ善ス。江戸八丁堀
ニ住ス。此士才学スコフル高シ故ニ師風變シテ一家ノトヲ成ス。化鳥
風ト云家書 笠乃 蠅 鎌倉紀行 かくがせ輪 九卷
同 十卷 同 十一卷 木曾の麻衣 清々むる
母思集 二葉松 信順行 百人一句三
一騎 步 等アリ宝曆三年癸酉七月廿日没行年九十二
本願寺中淨勝寺ニ葬ル 墓所一覽ニ宝永トアル筆ヲ誤リ也
辞世 空蟬ハととの裸ヲ返リけり

そのまゆき三
著述七十五版
焼失トアリテ
かくがせ輪
百人一句マテ
載タリ

再曰綾錦後集鳥山彦 享保廿年 印本上卷 誹風變化ノ辨ト云条ニ

「元禄のまゆき晋子其角洒落誹諧とり付合の一体と起以
岸本調和。阿曲一峰。大野秀和。岩本子英。等の宗
匠合体して當時の洒落と云誹諧ハ謎字乃体ト似て志
かも一句ハ訣別る。當流正風体ト云是ハるるをさへばと
黄楊枕ト云書と編を北藤浮生。原誹論といつ書と以て
其返答を以て正風と化鳥といふと誹諧ハけりより華江の
誹諧ニ流ふられぬ立羽不角ト云今千羽との頃より今以流儀
かへば息不局 壽角の三十八益々一流と立て他の誹風
小かちと云云トアラハ不角ノ流義ヲ化鳥ト云謬歟

不高

立羽氏安月堂ト号ス不角ノ長子ナリ 二男松千堂
家書 ねふのうらな 風姿集 ト号ス

山夕

樋口氏 二世 山夕 始仙水ト云久保町ニ住
江戸久 始仙水ト云久保町ニ住

荻野安静

或書安静初名荻田九郎兵衛重和トアリ此説ウタカシク直勇条
二洩セシ三巻刻ナリテ後道遊集貞徳翁ヲミルニ荻田安静トアリ是ニヨリテ
同人ナルヲ知レリ

似船

富尾氏通称弥二郎名重隆芦月菴ト号ス後薙髪々似空軒
ニ連続テ似船ト改公五條堀川久家書隱グサ 芦花集

堀川水

苗代水

勢田長橋

大上戸

安樂音

火吹ゴケ

此一書室永カク子詣ノ吟ナルヘシ
當時火吹竹ノ唱哥流行セリ

入相鐘

等アリ室永二年七月十六日没行年七十七

姓氏詳ナラス京師久家書

口説草 四巻アリ同

名俳士勢陽松坂ニアリ別人ナリ

加計

林鴻

堀江氏通称

名重則烟月堂風子ト号ス江州

大津久後京師ニ寓ス戯文ニ達シ画ヲ善スうふ毛ナトヨク知

ル所ナリ家書わらむつし

京羽二重 等アリ

福田氏井亀軒ト号ス後而笑堂ト改公晚年自法児ト称ス京

師久家書 磯あま松 一卷アリ享保十三年戊申

鞭石

二月十五日没行年八十歳

辞世 終ま岸の柳也法の児

佐藤氏桂花菴ト号ス

享保十五年庚戌十月三日没

行年七十京師人

當世百人句ノ一人ナリ

佐藤氏有扇力徒第名字詳ナラス元禄年間ノ点者

先兄没ス當世百人句ノ一人

村山氏風流子ト号ス京師人元禄室永中ノ点者

没年詳ナラス

若江氏通称詳ナラス名令之京師人

攀高

山縣氏杏花亭ト号ス 享保十五年庚戌十二月廿七日没
行年六十四 京師人

梅應

山中氏西扇堂ト号ス室曆二
年壬申十月没行年不詳

梅應

山中梅應息天明七年
丁未五月四日没五十一

練石

福田氏ノ鞭石ノ孫ナリ鞭石没後門人等師家ノ系緒断絶セ
テラ憂於是芦花翁其嫡孫練石ヲ輔テ二世点格ヲ立テ舊号
ヲ續テ即子而笑堂ト号ス晩年石々翁ト改メ玄兒ト称ス松原室
町西入町住ス家書岸 柳法児系追善やまき 高低窟
等アリ寛政元年己酉七月六日没行年八十八
辞世 〴〵洗ひん乃月の鏡ノ形

一四

西川氏明月菴ト号ス又自牧齋ト称ス京師人 延享
三年丙寅九月十四日没行年三十八

辞世 何悟ノ喝ト一声 秋乃蟬

竹田氏玄々堂ト号ス 寛保三年癸亥閏四月三日没行年
五十七歳 辞世 ゆく雲よきて連づらん時鳥

羽紅 知石

鈴鹿氏寸松堂ト号ス自芦花翁ト称ス弱齡ニ而咲堂門人ト
翁己ラメ執筆ヲ役セシ故翁ノ顔愛ヲ得テ家秘口決傳之無遺

家書 野馬臺集 三卷アリ 元文五年庚申

十二月十三日没 行年六十歳

荃石

知石カ息初名ハ知九寸松堂ト号ス生質穎敏ニ且篤實寡
風雅ノ器ナリ家書 千里 雪 云父没後幾ク歳アラ
スノ寛保三年壬戌六月廿七日没行年三十一人甚惜之

辞世 終リ乃水無月涼一宵清し

知木

鈴江氏寄松堂ト号ス家書橋立松 元文五年庚申五月
廿八日没年四十四 辞世 ゆく水くも小涼く石川也

翠柳

山中氏花木亭ト号ス 明和元年丁酉十月十一日没行年
七十二 京師ノ人ナリ

蘭石

中村氏雪竹齋ト号ス 元文三年戊午七月二日没行年
五十五 辞世 萩のさき弘陀ときく夜と期哉

蘭石

中村氏蘭石ノ息ナリ初如蘭ト云後父カ名ニ改メ元代ノ点格
益佳シ京師白山通松原上町住ス天明三年壬寅正月十日没

行年六十九 辞世 無ハ数々ト日ト多クテ枝々ト

佳山 丈石

中村氏央更舎ト号シニ蘭石齋ト号ス而咲翁ニ從テ道ヲ學フ尤点業ヲ續ク天明八年戊申九月廿日没行年詳ナラス早川氏千載堂ト号ス初名和雄ト云師家ノ執筆名ヲ曾テ四時堂ト至ニ因テ漢和ヲ善ス師没ノ剃髮シ宗順ト号ス家書

筆舞堂 長樂寺十句 菅蓑日記 西吟百歌仙
緒手卷拾遺 橋立紀行 南紀紀行 狂歌百首
俳諧家譜 等アリ安永八年己亥七月廿日没八十五歳

辞世 極樂ヲ誕生日ハクカレヤ

蘆中

古澤氏芸暉堂ト号ス初名牛磨ト云家書狂連十句大石
袖 鉤 園 莖 立 等アリ寛保四年甲子十月六日没
四四歳 辞世 我のこころわくとくハ霜の柱立

梨風

奥村氏芸暉堂ト号ス宝曆十三年癸未十月六日没行年五十
有余 辞世 一とふ海しき霜の基うら

林石

甲良氏伏亀堂ト号ス初名八愚候ト云又自都齋ト称ス後荃石ノ後ヲ續テ寸松堂ト云家書松乃林 梅乃林
等アリ宝曆二年壬申四月廿六日没行年六十三

因石

三谷氏松養軒ト号ス初名君李後今ノ名ニ改ム明和二年乙酉三月廿八日没行年六十七 辞世 名もかゝる花の浄土宿むひり

都牛

高橋氏轟々齋ト号ス又千蝶子ト云寛延二年己巳月廿日没行年四四 辞世 何のまゝ沙々多きか 秋乃風

五株

公木氏化龍館ト号ス洛東新道柳町住ス天明八年戊申六月廿八日没 辞世 いとせとのりこを蚊帳の中

其梅

野村氏伴松堂ト号ス天明八年戊申三月廿日没行年七十歳京師ノ人 辞世 祓々くハ無為の都と住所

調和

岸本氏通名猪右衛門名ハ友正薙髮ノ一ト号ス又主齋ト称ス江戸呉服町住ス江戸鹿子及圖鑑編目 本主ハ奥州人也始京師ニ出テ安靜ノ門トナレ側ニ梅盛ノ教ヲモ受ルト家書 是もも草

富士石 題林一句 等アリ正徳五年乙未十月十七日
没行年八十有余 築地門跡中ニ葬ル法名調和院道鑑居士
号ス 肖像ハ太白堂桃隣ノ陸奥千鳥ニ載タリ

調和

艶士

風和

立羽不角撰
百人句最上郡
大谷人アリ

心友

堀尾氏敲柳堂ト号ス初名ハ和推ト云調和二世ヲ續テ師ノ
名ニ改ム木芝ニ住ス寛保三年没行年詳ナラス
横田氏壺谷軒ト号ス東府ノ人医ヲ業トス
家書分外集アリ

江原氏正六位佐渡守ニ任ス出羽國社司梅樹軒ト号ス家書
梅乃露 把 菅 等アリ正徳二年壬辰二月十
八日於京師卒ス行年六十一歳

辞世 梅乃露 句の土と故郷と

中田氏通称詳ナラス鶉巴軒ト号ス始東府ニ住シ後伊勢國山
田乘ル神風館足代弘氏神風館ノ祖傳
系中編ニ季ト親ミ檀林風ヲ吟ス秀
吟杉の群立ニ出タリ又自ラ撰六御田扇四巻アリ没年不詳

和椎

和三

常陽

一鉄

喜得

宗英

堀尾氏始名ハ和專鐵ト号ス敬而菴ト号ス二世調和ノ息子
芝濱松町三町目ニ住ス没年詳ナラス

藤田氏名字詳ナラス麻布土屋君ノ侍医元祖点印二世調和
ヨリ附属ス 宝曆六年丙子秋没ス

木戸氏通称詳ナラス医術ヲ以テ業トス後根津権現ノ社
職トナル享保年間ニ没スむつ千鳥ニ肖像ヲ載タリ

三輪氏名字詳ナラス宗因ノ門人ニテ調和二属ス或云山池西
ニ属トモ池西
言水ノ句集毛登栢ニ江戶八百韻春明ニ古印本
奥ニ延室ニ年ト云集撰

一ゆりゆり時素堂ト云つるゆりゆりの夜いづく更ぬ所ハ本
庄一鉄ノ許家ヨリト云てかきゆりのを吟り云トアレハ

本庄ニヤ住ケン此文往時ノオモキ眼前ニミルコトナス
石橋氏名字詳ナラス伊豆ノ國人

家書 青柳千句アリ

内本氏

京師久

俊秀

京師久

定利

徳永氏
京師久

高嶋玄札

及加

高嶋氏通称善大夫勢陽山田師職玄札ノ
從弟ナリト云 家書 嘲哂集 アリ
或不在菴加友法師ノ門人トモ云是非ヲ不知

一 蜂

河曲氏俗稱詳ナラス田泉舎下号又自葛仙翁ト稱ス江戶
神田住ス晩年本土勢陽山田ニ皈ル享保十年己巳九月十日
没行年八十有余 陸奥千鳥ニ肖像ヲ載トリ

正法寺成安

成政 池嶋氏

宗 吟

池島氏通称庄右衛門名成之泉州堺ノ人成政從弟也○
古短冊裏書ニ池西言水カ伯父ヲ宗吟ト号ス大和郡山ノ下アリ同名別

正 重

多木氏俗稱ハ京屋清兵衛
泉州堺ノ人

柳 夏

細谷氏通称詳ナラス名成元
泉州堺ノ人

池田正式

正 親

池田氏正式男玉海集及源氏鬘鏡
五十四ノ一人ニ撰ケイレル郡山侯ノ臣ナリ

正 辰

岡村氏通称詳ナラス大和國郡山ノ住家書大和順礼集三卷
續大和順礼集 五卷アリ寛文年間ノ人

法樹院加友

加 連

伊勢松坂久姓氏詳ナラス樹教寺中
僧牧毛吹草 山井集ニ秀吟多
クイリ 山の井ハ正保四年印本大本ナリ
慶安校六橋本ニテ再刻

氏 守

荒木田氏

子 英

岩本氏通称忠兵衛伊勢松坂久後江戸下リ淺草ニ居住ス
後又本所ニ移ル家書 黄楊 枕 花時鳥 等アリ
貞享元禄年間ノ点者 白魚ノ句ノ美談アリ爰ニ畧ス

乾什

岩本氏子英 千歳児ト号ス満足菴ト称ス初名六吳文
ト云浅草竹門ニ住シテ一号ヲ竹婦人ト称ス戯文ニ達シ
水調子ト云院本曲ニキニタリ宝曆九年己卯二月十七日
没浅草寺境内人丸社前墓碑アリ

再曰加友撰集伊勢とよりイマダ聞セズ此外門弟多カレシ
或書ニ延宝四年ノ言羽織ヲ引用シテ
此名ヲ出セリ棕梨一雪カ号欵又親族欵
予未タ此書ヲミス

棕梨一雪

文西

高田氏通称傳兵衛京師ノ人後東武ニ移ル
家書 貞徳誄諧記アリ寛文中点者

渡邊氏通称八弥尾名古屋ノ人ナリ 或云友次門弟ナリト
家書 旅衣 四巻アリ 万治寛文中

姓氏詳ナラス独弁軒ト号ス
京師ノ人

一貞

友意

春昔

藤谷貞兼

貞頼 藤谷氏通称三右衛門 貞兼父歿

貞則 藤谷氏通称弥右衛門

貞勝 藤谷氏通称弥七郎

寺井氏輪花堂ト号ス自村雲翁ト称ス又要心居士ト号ス
京師ノ人ナリ 享保十五年庚戌八月八日没行年七十歳

辞世 月影とく月く今以十万里

西角

北川氏西角菴ト号ス湖塵窟ト云自韻翁ト称ス後薙髮メ
行雲ト改云堀川通元誓願寺上町ニ住ス家書 鳥宿アリ

一方

宮川松堅

。長之 宮川氏通称三郎右衛門 松堅兄歿

晚山

瓜木氏陰花堂ト号ス又二童齋ト称ス初名六永可ト云富小
路加藤盤齋カ舊宅ヲ購ヒモトテ居所ス家書 千代古道
橋立紫内 等アリ 享保十五年庚戌八月十昔没行年六十

九歳門人等遺言依テ雙岡長泉寺中兼好法師ノ墓ノ傍ニ立
辞世 海峯々々る身ハあゝのまのま
再曰元禄五年 書目録ニ山太郎返答摸物語ヲ著タル
門人石柱ト云人アリ是レ晚山カ秘号歟

晃山

爪木氏晚山ノ息男ナリ後京師ヲ去テ津國長柄村ニ住シ
雅業ヲ廢メ医トナル 没年詳ナラス
井上氏櫻戸ト号ス 享保五年庚子八月十五日没行年
六十四歳京師人

道山

大矢氏初名虎竹我黒ノ門人ナリ黒没メ後晚山ノ弟子トナル
蘆隱軒ト号ス老後薙髮メ高辻烏丸東清香菴ニ住ス自第
齋ト称ス 家書 四季大全 俗根源 等アリ
延享三年丙寅九月廿七日寂 行年七十九歳

白鵠

重田氏寄石店ト号ス初淡々門人後白鵠ニ属ス回文ヲ善ク
即座數句ヲ吐ク家書 青海波全編アリ 享保十八年

梧山

癸丑三月二日没行年三十八 曾テ聞ク臨期夜窓前ノ梅
樹花絶ニ殘ル偶鵬ノ来啼アリ山カ曰吾將終即取筆辞
世ノ句ヲ書ス 香やひき法々々名なきひや 書シ
已テ眼ヲ閉ツ可憐年来ノ習情末期ニ及テ猶作回文句ヲ
野々山氏初名施隱招花堂ト号ス 享保十八年癸丑八
月八日没 行年五十八歳京師人
梅原氏和海軒ト号ス 享保十三年戊戌七月十四日没
行年六十歳 京師人 枿園ノ三世トス

晚年

加藤氏通称詳ナラス枿園ノ四世トス 享保十五年庚戌
四月七日没行年詳ナラス

貞為

北田氏通名詳ナラス享保七年壬子九月十八日没行年四十七
辞世 木よりりやをりて益るきいひか

松貞

大塚氏雲石翁ト号ス松貞 徳田氏伊高齋
没後枿園五世ヲ續グ 鳥道 ト号ス京師人

清佐

周為

捨女

丹波國氷上郡栢原田氏ノ女子リ弱年ヨリ和歌誦諧ヲ好吟叟ノ門弟多リ寛文曉山の井後松堅ニ属シ專和歌ヲ学フ女六俳仙ノ一人ナリ曾テ宗族田義園田野克玄一カニ嫁シ杜歳ニシテ寡トナリ剃髮シテ妙融ト号シ淨土律ヲ学後禅法ニ皈シ大法正眼國師江ノ本在天禪寺開山ニ參メ開悟ス一草廬ヲ播州網干邑ニ創メ不徹菴ト号ス元禄十一年戊寅八月十日於彼菴寂ス壽六十五歳 嶺雲貞閑尼首座ト諡ス

正宣

香田氏初名八明水ト号ス後人子ト改ム居ラ堪忍軒ト号ス又松戸ト云自衰羽ト称ス家書 松戸集 麻木合カリヲシ 等アリ享保三年五月十二日没行年五十八歳

其諺

圓山正阿弥住職五條橋東ニ隱棲メ四時堂ト号ス又自肖菊翁ト称ス曾テ真珠菴如泉ニ隨ヒ漢和ヲ学フ尤無敵詞鋒多ク泉カ誦漢此翁ニ及テ倍々興ル家書 御傘執柄抄 獬冠子 金衣鳥独吟漢和十句滑稽雜談抄北四卷写本此昏佛誦ノタケケニアラス好古考トナルヘキ一甚多シ元文元年丙辰八月廿二日寂ス 行年七十一歳 辞世 七十一年よりいひつゝあのみ

流石

三輪氏鬼角堂ト号ス初東府ニ住メ立羽不角カ弟子ト為テ鬼角ノ字ヲ得タリ後飯京菊翁ノ門人トナル延享初年没ス三宅氏蝶々舎ト号ス誦漢ヲ善ク且書画ニ巧ナリ 元文元年丙辰五月十七日没 行年四十一歳

米史

嶮岐氏初名八如牛後阜澄ト改ム後又米史ト更ム師家ノ二世ヲ續テ四時堂ト号ス延享四年丁卯十月廿日没四十四歳 辞世 心々地獄ハ敷たたりき生ねてゆえ銀拵の家

普求

山本氏初名不求松門亭ト号ス又自雪莎翁ト称ス東洞院通孫下町住ス家書種 袋 火燧印シ 磯乃シ 等アリ 明和八年辛卯七月廿日没 行年七十九 辞世 心ちよし 秋の日に死出梳

来々

河合氏五湖菴ト称ス初名八湖貫祇園新地末吉町住家書志賀の餘花アリ 安永九年庚子九月十七日没五十四歳 辞世 帳子を我が秋き衣ノ那

賦泉

石田氏名字詳ナラス七條南魚店堀川ニ住ス安永五年丙酉十一月廿九日没五十七辞世リリヤリヤ々々ト其の事ト佛ノ

倭泉

石田賦泉妻泉没ノ後引墨ヲ修ス
普求門弟没年詳ナラス

應隨

松本氏窓月庵ト号ス銀治町松原ニ住天明三年癸卯三月十日没ス五十三辞世 世の縁シハキク我ハ形ニシ

可静

戸田氏瑞雲園松亭ト号ス寓舎ニ應隨ト同所天明五年乙巳土月六日没行年辛八拾遺家譜増補ニ土月五日五十五歳トアリ

辞世 寂ハ函暮リ ぬ日乃雨ハ

半井ト養

器水

半井氏温野慶友次男泉州堺人又云圃門人定親一号ヲ器水子トアリ考ヘレ○又云綾カキニト養門人ニト入ト一ナド載々トモ故アリテ爰ニ畧ス

半井氏ト養男

兼豊

門村氏通名詳ナラス薙髮ヲ法橋ニ任ス江戸久保町住ス晩年ニ及テ居ヲ京師ニ移ス本共南都人各ヲ善ス

ト仙

吉田友次

流水

吉田氏友次ノ男カ尾州名吉屋久梅盛門ニ遊フ家書 兄井一卷アリ

高瀬道甘

見性

伏見蔵之坊ノ住僧

間加

伏見蔵之坊ノ僧素スニ後年間隨ト号スル
當世百人一勾ノ一ハ此僧ノ後名歟

片桐良保

良保ノ二字ヲ名乗ナラト思ヒヲリニ青木鷺水ノ俳諧新式ヲ見ル政恒トアリ上巻貞徳直弟ノ条ニヤリテ洩セルヨリ爰ニ識ス

常矩

田中氏始麻尾俗称ハ甚兵衛名ハ忠俊薙髮メ真齋ト号ス少メ識量アリ始貞翁ノ風下ニ從ヒ眼ヲ開テ一流ヲ起ス一年ハ蛇之助ガウノみの鐘や花の暮ト吟テ蛇之助ノ号ヲ得タリ後宗因ト交會シテ專ニ雙ノヲ吟ス 家書 花見三吟 雑 巾

捨舟破帚杯ざ先塵取
五百韻等アリ没年詳ナラスト雖在案スル天和年間欣
清風カ著ス步曇磁下云吞宗因常矩追善集トキケリ未閱

如川

高松氏通名龍明京師ノ人医術ヲ以テ業トス始ハ梅盛ニ隨後
常矩カ手ニ屬ス没年詳ナラス案ニ延室ノ頃歿

蚊足

和氏通称源七郎圓常ト号ス上代風ヲ好テ筆道達ス曾聞
常矩撰スル集物多ク此人ノ筆ナリト云書畫便覽ニ号ヲ寬車ト

薄古

アレトモ謬チリ延室七年ノ塵取集ヲ開キテ惑ヲトクベシ
明田氏通名玄菴橘祥軒ト号ス京師ノ人医ヲ以テ業トス
後似舟ノ門下ニ屬スト没年詳ナラス

一味

北田氏通称詳ナラス一号遠雄ト云
京師ノ人

正業

田中氏通称作助ニ條堀川ノ人淡葉軒ト号ス始西武貞室
ニ隨ヒ後常矩ニ屬ス没年詳ナラス家譜ニ正徳五年八月十日
没六十歳トアレモ謬也古集ニハス尚常矩カ親族トスル覺束ナシ

生西

小野田氏名ハ二竹軒ト号ス
京師ノ人

竹亭

溝口氏蚤歳ヨリ誦諧ヲ好ミ和及竹翁ト友トシ善シ每ニ行厨
ヲ携テ遠近ノ勝地ニ遊ス坐ノ吐キ行々吟ス日トノ句アラスト云
ナレ家書此各集ナリヨク知トコナリニ卷アリナリ數段アリ大同小異元禄五年
壬申六月廿九日没行年三十五歳

澤女

姓氏居所詳ナラス
常矩カ集ニ秀吟多出ス

助叟

片山氏名字詳ナラス椿木亭ト号ス洛陽東山ニ住ス本六肥
前長寄久人家書京の水ニ卷アリ没年詳ナラス
案ニ室水頃歿サテ拾遺家譜ニ大淀三千風ノ門弟トセリ予
自撰ノ京の水ヲ見スルニ三千風ニ隨フ據キニモアラス

可俊

森氏名字詳ナラス京師ノ人ナリ
家書、大路車付合集アリ

尚白

江左氏大津ノ人後蕉翁門派ニ似ス
委シク中編ニ云ヘシ爰ニ畧ス

暮四

石井氏始名龜林後一ト改公石壽菴ト号ス又自五橋公羽ト称ス享保十九年甲寅二月廿五日没 六十九歳

市貢

次山氏巨璞堂ト号ス又石壽堂ト号ス洛東鷺ヶ峯ノ麓住ス家書 彼 岸 暮四追善集ナリ 寛保三年癸亥正月四日没ス行年五十有三 辞世 我きえく窓りのこや鏡の空

市楓

松原氏名字詳ナラス石壽堂ト号ス初名、木ト云家書 乘 合舟 鷺 雪 市貢追善 等アリ

蝶之

人見氏芳草亭ト号ス明和五年戊子八月廿五日没行年五十一 辞世 一粒樂の道と西へ渡 鳥

松永尺山

貞山

相淵氏名字詳ナラス芦丸舎ト号ス又湖月亭ト称ス京師人後江戸ニ移リ楠町ニ住ス家書 抄ツ見 手橙 灯 江戸名所集 其 傘 親 鷺 闇 磔 抄 寛保元年辛酉 没七十有余 再曰貞山師トスル松永尺山ト云人古書ニニス或書天和貞享頃松永未春ト云人アリ此人欣傳系ラシラス

貞賀

相淵氏貞山ノ男

貞橘

姓氏詳ナラス江戸人

貞至

星川氏澁柳菴ト号ス家書 机 勝手

貞屋

熊谷氏旭洲洞ト号ス京師人

足村言當

重當 足村言當男

齋當

重當男通称 三郎右衛門

○以上道遊軒松永貞徳居士孫弟

○檀林風祖 並直弟

六宗因

西山氏通称二郎名豊一始一幽下号ス後宗因下改公明曆万治又自
 西宗下称ス又於下号ス此外西宗子梅由子梅花翁野梅子忘吾子等諸号アリ元肥後國加藤家
 侍臣下云吾保年間浪化江北天満天神ノ社地ニ住シテ向榮菴下
 号ス其後社地ヲサリテ其菴屋町天満内也ニ移リ寓スノ際初懐惠
 菴里村昌珠法眼二月廿辛入六十歳ノ門ニ入テ連哥ヲ善シ天満天
 神月次宗近タリ後長子宗春ニ譲リ己ノ宗鑑方天筑波守武神
 手独吟千句ヲ慕テ滑稽家トナル一年西國ニ遊フ其頃即非禅
 師ノ法嗣法雲和尚トテ博識ノ禅僧オス則俗弟子ト成テ禅意
 ヲ受クメクリ帰テ江戸ニ下リ都ニ登リ專新意ヲ吟ス依テ門
 子ト成ル人潮ノワクカ如シ寛文ヨリ下天和貞享ニ至テ名ヲ海
 内ニ裏ス此一流ヲ称メ當風トモ又檀林風トモ云 家書

蕃椒百韵 獨吟千句 後五百韵 後千句
 両吟集 鎌倉二百韵 七百韵 花洛百韵
 十會集 釋教百韵 天満千句 北草二百韵

宗春 西鶴

四人法師 一時 兩 云了あ兄 高野紀行
 等アリ 天和二年壬戌三月廿八日没 行年七十三歳
 天満寺町西福寺ニ牌アリ

西山氏宗因息父ノ業ヲ續テ連歌ヲ善クス天満其菴屋
 町ニ住ス延宝年間慈父連歌独吟集ヲ上木ス没年詳ナラス
 井原氏通名詳ナラス初ノ名ハ鶴永薙髮ノ一ト改公松寿軒
 ト号ス鎗屋町ノ人延宝年間一日二万三千句ヲ吐テヨリ称
 シテ二万翁ト云又戯文ニ妙ヲ得著ス所幾許アリ家書

大夫如代 後大夫如代 朋不祢
 杉屋さき 石ころま 以下戯文 一代男
 大うぐ尻 二小八男 三代男 一代女
 武家さくら 正道傳來記 櫻隱秘事 永代記
 置土産 ひうんざら 文及古 西雀るし
 名残友 西雀織留 浪卷大鏡 白月筭用
 一目玉鉾 等アリ

非線大系圖下卷

松意

衛ノ華ナリ甚珍ニ冊子ナリテ
表目ヲ忘失セシ故警思者アケケス 元祿六年癸酉八月十日没行年五
二歳 上卷ニ極出 浪老八町目寺町誓願寺ニ葬ル牌面曰仙皓
西雀 門人 雀平團水建之

田代氏 本姓
高木氏 名ハ秀延琴風軒川草子ト号ス後檀林軒
ト改メ大和ノ久大坂ニ任ス寛文未東府下リ宗因風ヲ弘
飛躰トテ日々ノ變化ヲアラス是ヲ江戸檀林ト云 家書
虎漢集 西雀
三吟 雀宿有リ没年詳ナラス

宗旦

松井氏通称詳ナラス也雲軒ト号ス攝州伊丹久 或曰池
田人
家書無分別 宗因ノ句ニ下
カヤキカケル 籠ぬけ 木共百九
鬼貫録
遠山鳥 鵜真似 加
校ニハ 無盡 經

高政

野梅集 等アリ伊丹風ノ祖ナリ 當百人一句ノ一人
菅野谷氏薙髮ノ法橋ニ任ス於京師宗因力誅風ヲ立總本
寺半傳連社号ス蓋シ東府ノ檀林對ス意也友静仙菴
如泉等高政ニ與シテ梅翁ノ風ヲ弘ム因之古風ノ俳士ト爭論
交起ル所謂ル破邪顯正 猿よりり 頼政ノ心
三人ノ心
等ノ闘合多ク出ス云又オノカ著ル集ハ 中庸 姿

惟中

繪のり 後集 是天道 三百韵

江戸躍 等アリ没年詳ナラス 當百人一句ノ一個也

岡西氏通称詳ナラス名勝 字赤子一時軒或閉々堂ト号ス
因幡國取鳥ノ人弱冠リ博物多識多リ故アリテ因幡ヲ去テ備前
岡山ニ寓メ專儒ヲ以テ業トス延宝五年再備前ヲ出テ浪老高麗橋側
ニ下居ス初歌道ヲ関与兵衛盛貞 中院通村御
御門人因幡人 及為丸資廣卿ニ教
ヲ受ク一年西翁西國ニ遊フ則門人トナリテ滑稽家ト云 家書

太郎五百韵 次郎五百韵 誦諧蒙求 十百韵

近來風躰 誦諧三部抄 浪團扇返答 破邪顯正返答

自註評判返答 いつと都の 徒然草直解 續無名抄

徒然草真名 枕草紙芳註 和歌秘密 一時隨筆

外題カエ金砂
草帛ト云 等アリ 元祿五年壬午八月十日没行年

五十四歳 家語 望一門下ノ条ニ曰 惟中岡西氏備前人也
初号一有後改惟中云又 同書 園女ノ条ニ惟中去郷住于浪
老之日迎之 園女
カハ 為妻中没後移住于東府属其角云一
此說謬ナリ一有ハ斯波氏ニシテ伊勢山田ノ俳哲ナリ惟中カ

初号ニアラス御田扇 天和二年伊勢山田忌友撰り 當世百人一首 元禄四年日本行脚文集

伊勢大波等ニ兩個トモニ出タルヲ以テ惑ヲ氷解ベシカワ園女ヲ惟中カ妻ナリト云モオノワカラ明白ナルシ尚蕉門ノ条ニ委シ

前川氏名ハ由平或云通称夕舟子ト号ス浪老平野町ニ住ス

晩年秋門ニ入テ自入ト改ム室永年間北野村ニシテ没行年不詳

林氏名字詳ナラス西鵬齋ト号ス大坂久延宝年間俳学ノ

為ニ東府ニ赴ク宗因己カ梅ノ一字ヲ讓テ梅朝ト改ム其以前ハ

西鵬ヲ以テ号トス家書 精進贈 通一馬

等アリ當百人一首ノ弟ニ出ス

高瀧氏始山通称正左衛門名安之薙髪メ似仙ト改ム又自益

翁ト称ス泉州堺久後大坂江戸堀竹屋町ニ住ス初ハ令徳門

人多家書 落花集 犬さくら 両吟千句

濡ガクモ 等アリ没年詳ナラス大坂俳歌仙ノ一人

松山氏名字詳ナラス大坂ノ人 季吟門鳴戸水雲ノ作セシ

大長刀ニ曰「政也ハ大坂の人季吟先生旧友めて俳諧の多舎

度ク有り」其舎のさびき等先生はゆるせ一人と云

昨非 定直 幾音 西國 如自 萍宿

俳諧の風俗大坂乃濁流ノもまびんよき作者ぞウシ

且亦去年延宝四年の四月に「せー人」トアリコニ大坂乃

濁流ニモ添ズトアレバ別派ノタリヤ尚ヨク考ベシ浪老俳哥仙ノ人

乾氏名字詳ナラス葉香軒ト号ス備前岡山久酒ヲ嗜フ業ニ後浪老

江北天満橋側寓シテ点者トナル初立圃門子多家書 繩まど礼

悲の巻 根合 わいぼー 等アリ

木畑氏通名玄佐備前岡山久人医ヲ以テ業メ家書五ヶ 國

兩吟集 脊戸曙 臘月夜 等アリ

中堀氏柳和軒ト号ス始音後幾字夜浪老尼寄町住ス家書

家土 産アリ○兄ヲ初知去狂歌俳諧ヲ能ス何人所クルヲ不知

豊後國ノ桑門或西海トモ云家書相 腹中 花見數寄

兩吟十歌仙 等アリ没年詳ナラス

石井氏朝鷗子ト号ス肥前佐賀ノ人ナリ始立圃梅盛ニ親ク宗因

西國ニ遊ル期門弟トナリ則兩吟三百句ヲツラヌ一時兩ト云冊子是也

那波氏通名江雲初名志好襟軒ト号ス又自萍翁ト称ス京師ノ

人ナリ季吟門弟ニ檀林ニ皈ス 虎溪橋 作者

治平 均明 春倫 宗静 秋香 鵬一 正友

城越氏或堀越氏通称詳ナラス撰陽平野邑ノ人後大坂備後町八丁目ニ住テ古筆賞鑒ヲ以テ業トス家書古今俳諧師手鑑アリ
苗氏詳ナラス通称亀屋徳右衛門ト云浪老ノ人
櫻千句ナ歌仙各盃吟者

濱田氏名字詳ナラス浪老ノ人○從弟ヲ春良ト号ス俳諧ヲヨクス和歌明題部類抄ヲ著ス或云維舟門人トモ
土橋氏通名以慶後以計ト改ム大字軒ト号ス又春林子ト称ス撰州平野邑ノ人後長堀十町目ニ住ス筆道ニ名アリ家書浪老色紙アリ没年詳ナラス案スルニ正徳ノ頃歿

井上氏通名昌海名貞則大坂高麗橋筋島屋町ニ住ス筑波ノ道ヲ以テ業トス里村家ノ門人俳諧ハ宗因門弟タリト
苗氏詳ナラス越後國九足ノ人大坂ニ寓ス家書八景集アリ

遠藤氏通称詳ナラス江戸ノ人綾錦荒木加友系自「正友勢州杉木勾當望」一弟住芝源助橋延宝ノ頃檀林流布時合辭思代松意而宗因荷擔トアリ此説謬アリ松意ト合辭セシ杉木正友ニハ

無ト

アラス別人ナル一苗氏ヲ見テモ論ナカルシ冬シ加友門ト云考アリ望門云平田氏幽翁ト号ス江戸ニ住ス本士ハ越ノ國ノ人ナリ享保辛年庚子十月廿日門人京橋柳町忠次宅ニテ没行年六十二歳

辞世 其心との期ありてそのかこ先をいれよ世の中

浅沼氏賛也ト号ス又望山軒ト号ス浪老嶋屋町ニ住ス書ヲ善クス

白江氏通称玄桃医術ヲ業トス始ノ名ハ白云ト云浪老御霊前ニ住ス筆道ニ名アリ

大坂西道寺住職半捨軒ト号ス家書浄土珠數アリ

苗氏詳ナラス通称ハ塚屋治右衛門

撮忍住吉ノ人六くく吟者

土屋氏通称外記 松平出羽守 君ノ家臣

江戸人

小坂井氏或由比氏トモ通称左衛門

江戸ノ人檀林十百韻吟者

宗貞 醉鶯 正察 未次 四友 雪柴

萍友

萩原氏阿波德嶋
久家書四國猿

如見

樋口氏浪老人
名字詳ナラス

西隨

早川氏
同

一禮

中村氏始名志討ト云
檀林十百韻ノ一人居
所上ニ同シ

夕鳥

深江氏
同

素敬

苗氏詳ナラス
同

櫻花

松井氏名重宣
同

百丸

森氏名一勝白鷗堂ト号
ス伊丹ノ人

本兵

岡島氏名豊常
同

鐵幽

上島氏鬼貫親族
同

鷺丸

苗氏詳ナラス
同

昨雲

笠原氏通称半左衛門
江戸ノ人

柴舟

苗氏詳ナラス
大坂ノ人

夕扉

船橋氏
夕扉妻
同

榮倫

紫硯

内藤氏元京亮名義恭風鈴軒白藤子ト号ス又風虎ト号ス奥州岩城彦 御集夜の小き 櫻川 信太と云 六百番俳諧合 等アリ

露沾

内藤氏義恭君御嫡下野守名義英遊菌堂又傍池亭ト号ス父君ト俱ニ宗因カ門弟タリ 享保十八年 十四日卒

◎西山宗因孫弟系

井原西鶴

東鶴

北尾紅翠齋ノ繪本ノ序ニ
此名見エタリ西鶴孫ト云

西吟

水田氏通称詳ナラス落月菴ト号ス津國櫻塚ノ人書ヲ善クス師ノ一代男八巻ハ此士ノ筆ナリ 家書 西吟何々々 鬼の目 浪花さくら 菜のこもる

鶴平

塩味集等アリ當世百人ノ人ナリ元禄年間点者
下山氏通称喜右衛門大坂心齋橋筋北久宝寺町ニ住シテ
物ノ本ヲヒサグラ業トス
姓氏詳ナラス

炭翁

團水

北條氏俗名詳ナラス橘堂又平元子ト号ス薙髮シテ

白眼居キト云ニ條堀川ノ人ナリ後浪卷ニ下リ西鶴力遺跡ニ
住シテ西鶴菴ト改ム家書 塗 笠 秋津一 又

にん袋 弥之助 独鈷鑣論西雀ト西作

特一 等アリ家譜ニ生涯清貧之人也トイリ

宝永八年辛卯正月四日没行年四十九

辞世 おちりく引るく胸の月清し

再曰正徳二年印本年号未詳怪談諸国物語ニ團水名アリ別ナリ

貞上

姓氏詳ナラス文才舎藤角力橋肩ニ西雀菴山田溪尾ト云
人アリ此人ノ後名欵又ハ東雀力初名欵

才磨

椎本氏始音氏云名則氏字少文松笠軒ト号ス又菅徳翁ト称ス
初名西丸八千九ト号ス南都人或云和加宇多入始江戸ニ住シ後難波
父市町又天満七町目ニ寓ス家書千葉集 伊丹句合
元文三年戊午正月二日没行年八十或曰白宗因直弟

只九

弄松閣ト号ス又自鴨水子ト称ス高田宗ノ僧京師本誓寺
中福昌菴ノ住職法名覚印ト号後浪卷谷町欣浄寺ニ
住シテ改ム家書 三阿トろ 小松 原
托のうひり 足どろい 貞徳永代記批言 明題集

等アリ正徳二年壬辰十二月二日寂七十有余謚樹心房去
辞世 陸と思ふ鴨やなふもの水もあれ

佳風

豊島氏通称平治右衛門有紀堂ト号ス始才尾ト云江戸堺町
ニ住ス家書 夢想 扇 アリ享保十二年戊申十二月十
四日没四十九谷中大雄寺ニ葬ル法名日好ト云

逸志

笠家氏素竹軒ト号ス晩年半局菴ト称ス江戸浅草
竹門ニ住ス家書 犬椿葉集 アリ延享四年丁卯五月

芳室

廿七日没行年詳ナラス報恩寺中高徳寺ニ葬ル
推本氏甘泉菴ト号ス舊室翁ト称ス浪卷ノ人 家書
難波鶴 續千葉集 追善集 石霜菴
白玉椿 著花集 等アリ
丁卯三月四日没行年八十四

矩州

推本氏五彩堂ト号ス初名桐磨元奮徳翁門人ニシテ
芳室カ後ヲ續ク 家書 哀些集 清逸集
四日 施 等アリ没年詳ナラス

春耕

千葉氏石橋隣ト号ス浪卷
久家書無盡藏アリ 皎々 光枝氏鶯 魯紅
児嶋氏青房ト号ス浪卷ノ人 家書 厚顔記
通俗志 奥小日記 等アリ没年詳ナラス
十河氏通称詳ナラス家書土 餅 松之鳥米
等アリ没年未考大坂ノ人

負丸

何中

大立

竜田氏水足軒ト号ス 家書 毛登能水 又ハノ水
延享元年甲子四月廿六日没 六十九歳歿
辞世 廿八日我ハ六十九夜の明

元橋

梅門

了雨

水足氏荷旃齋ト号ス家書 天香集 古硯屏
等アリ没年詳ナラス大坂ノ人
稻木氏始房磨ト号ス家書 霜と礼 小倉塵
布恩川 月の月 倭多羅尼 象山蔭
等アリ没年詳ナラス浪卷ノ人
吉田氏戸樞菴ト号ス家書 梅朝 此君
波入日 梅千本 二日影 等アリ

田代松意

松水

杉木氏 田代氏 於亀戸天神宮面廊 笠著
誦諧之發起 あやかし三アリ
延宝三年 江戸談林十百韻 一座セル 野口在色 出来松白
豊後一朝ノ三十八宗因直弟歿松意下葉歿未考

志水盤谷

千足氏梅堂下号ス始尾谷ト云神田住ス家書
園圃録 丙子年 等アリ寛延元年
戊辰土月六日没行年不詳

内藤露沾

概純 松賀氏通称伊織紫塵下号ス風虎
君ニ教ラ受ク 仙臺岩城久

露言

福田氏風琴子ト号ス初調和門ニ調也ト云江戸南傳馬町
二住ス元禄四年辛未四月十日没六十有余

雨言

白堂ト号ス
江戸久
空生氏通称左太夫活久
後蕉翁門ニ皈テ沾圃改

沾德

水間氏通称治郎左衛門名友兼合歡堂ト号ス又友齋ト称ス始
露言門弟ニ沾葉ト云東府久後一家ヲテ四海鳴ル家書
餘花千句 同 續 一字幽蘭集 後年名吉屋ノ士朗
カ著述ニ同名アリ

沾洲

貴志氏行翰齋ト号ス又自五千叟ト称ス始名民丁ト云東武
ノ人家書 兩吟集 西行菴 芭蕉菴
梅日記 七十子 等アリ元文四年 行年七十歳

子葉

大高氏通称源吾名忠雄播州赤穂浅野家ノ義士死ストシ三十三
辞世 梅下のひさるをさるへ一死出の山

春帆

富森氏通称助右衛門名正因浅野家ノ義士死ストシ三十四
辞世 夢鳥のちひらけらるるあか

竹平

神寄氏通称與五郎名則休浅野家ノ義士死ストシ三十七
辞世 吟不知○以上三才傳諸書云テヨク知ル所ナク爰ニ畧ス
篤田氏六峯仙ト号ス江戸茅場

青峨

町住ス享保十五年没行年不詳
青峨 前田氏二柳菴ト号ス
始及梁或恭室ト云

沾山

内田氏通称不詳薙髪ノ桂二房ト号ス江戸浅草ニ住ス家書
麓乃道 濱松枝 東千句 等アリ宝曆八年没

仙鶴

堀内氏化笛齋ト号シ長生菴ト称ス又自鶴翁ト称ス元東府久宝永中京師出テ点者多ク此叟茶ヲ嗜ミ古器ヲ愛スワ癖アリ故ニ其道遠ノ人此叟ヲ識者多シ又戯画ヲ善ス 家書 忘く内 二月箱 水精宮 人曆千年記 等アリ 寛延元年戊辰閏十月廿一日没行年七十四歳

鶴人

森川氏並笛齋ト号ス京師ノ人 寛延三年庚午三月朔日没五十二

甘谷

長島氏名字詳ナラス 甘谷男 宗久 長嶋氏通称詳ナラス 享保十三年没 宝曆七年没八十二

壺月

石川氏江戸ノ人 享保中ニ没

蒲文

豊津氏午晴菴ト号ス又鹿吼子ト号ス初東府ニ在テ業ヲ行軒齋ニ受ケ後浪卷ニ出テ一炊菴ニ属メ点者トナル 家書 画賛集 五百仙 等アリ没年詳ナラス

謝大

長濱氏朝巢軒ト号ス 大坂ノ人

常仙

志村氏孤鶴汀ト号ス或ハ三橋菴青麥堂ト号ス又長鶴子ト称ス家書 続乃筏 鳴むッー 千々の秋 等アリ

幸徳

延享元年甲子二月 没ス行年詳ナラス 今村氏石泉ト号ス始名ハ魚尺江戸和泉町ニ住ス 家書 寰中倉アリ 没年詳ナラス

紹廉

小野氏銀竹堂ト号ス後一炊菴ト号ス 浪卷ノ人家書 宗因句集 アリ

白羽

鹿嶋氏十南齋ト号ス往シ延享中独吟万句ヲ催ス席ヲ倫後 二張終日ニテ満座ス其雄名坂中ニ鳴ル家書 無山香 石 紫 丑 文 臺 一 日 萬 句 半 墨

藤角

難波筏 等アリ 没年詳ナラス 木澤氏文イ舎ト号ス浪卷ノ人 家書 橋屑 蛙ふくら 等アリ

芳 畫

露 月

露 牛

沾 涼

木村氏亞齋ト号ス
泉易塚ノ人
茶 雷 山縣氏東居齋ト号ス
浪卷ノ人

豐嶋氏通称治左衛門名貞和五重軒ト号ス始ハ識月ト号ス
東都ノ享保十六年薙髮シテト改メ家書 誹諧宮遷

二子山 倉の象 名物鹿子 二重漆
卯月庭訓 闇のう丸 寄進能 句靈宝

等アリ 宝曆元年辛未 没行年八十五
赤菽氏名字詳ナラス始ハ湖十門人門中編委ニメ
花麥ト云江戸ノ住

菊岡氏通称藤兵衛名房行雀下菴又南仙齋ト号ス始ハ一門
ノ門子ニシテ南仙ト云江戸神田ニ住ス本士ハ伊賀上野ノ人家書

百福壽 同後集 綾少一き 鳥山彦
百 花實 日光名跡志 近代世事談 浮鹿子温故志
江戸砂子 同 續 本朝俗諺志 誹諧故事談
等アリ 延享四年丁卯十月廿四日没 行年六十有余

淺草誓願寺ニ葬ル

布 仙

菊岡氏晴行舎ト号ス
沾涼嫡子居父同所

軒水 本秋 如昔 西鴈 荷平 似扇 文流
天垂 燈外 幸方 岸紫 美雀 宗圓
○右之俳士イヅレモ檀林黨多リト雖モ系統考ガタシ

○三千風

大淀氏名六部字友翰勢州射和邑ノ人大箭數ト称シ寓言堂
或無不非軒紫冥軒ト号ス 此外尺鷲堂ニ念堂橋木 十五歳ニシテ誹諧ニ
傾キ和漢ノ學ニ通シ文筆ヲ善ス和歌連俳ニ於テ師園ニ入頓悟久
也三十有二三浮屠トナリ吞空法師ト号ス日本舊地勝景徑徊志ヲ
起シ先仙臺ニ赴キト居スルヲ十五年ヲ経タリ延寶ノ頃一日ニ獨吟三千
句ヲ吐テ片時ニ數幅紙牋ニ書ス故ニ以テ為名後天和三癸亥春仙臺
ヲ鼓足シ元禄ニ己巳夏ニ至テ首尾七年ヲ行脚成就シ射和ニ皈ル

言三三三三三三

伊勢何とがは

三卷 古画 古画入

好間漫録

好間漫録

三卷 水巻

吾桐餅入

三卷

桐卷大系

中巻

不巻

限巻

全本八巻

室川春即立候書目

